

**令和7年度
事業報告書**

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

公益財団法人 北九州産業学術推進機構

目 次

■ 事業の概要	2
■ 具体的な取り組み	
【公益目的事業会計】	
I 北九州学術研究都市の機能強化	
1 人材育成の推進	3
2 学研都市の国際化の推進	11
3 学研都市の効果的な運営	13
II 産学連携による技術力の強化及び新事業の創出、生産性向上等の取組	
1 情報発信と連携の場の創出	16
2 研究開発の支援と事業化の推進	16
3 ロボット・DX の一体的推進による生産性向上等の支援	25
III 中小企業の経営支援と創業の促進	
1 中小企業の経営支援と創業支援	34
2 知的財産権関連支援	34
【収益事業等会計】	
(1) 学研都市施設活用事業	35
(2) 財団ビル運営事業	35
【法人会計】	
(1) 財団の管理運営等	35
■ 事業報告の附属明細書	36

■ 事業の概要

公益財団法人北九州産業学術推進機構（以下、「FAIS」という。）は、平成13年に地域の産業を支える知的基盤として開設された北九州学術研究都市（以下、「学研都市」という。）を中心に、北九州地域における産学官連携による研究開発及び学術研究を推進する等により、産業技術の高度化及び活力ある地域企業群の創出・育成に寄与することを目的に、大学・研究機関と産業界との連携の推進や、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援を行っている。

現在、学研都市では、国・公・私立の大学1学部4大学院、企業56社及び研究機関11機関等が集積し、学生、教員、企業関係者などを合わせて約3,700名が、教育や研究開発等に取り組んでいる。

令和7年度は、引き続き学研都市の指定管理者として共同利用施設等の適切な管理運営を行うとともに、産学連携の推進、地域企業の経営支援に取り組んだ。

令和5年度から引き続き、次世代自動車、ロボット、AI、半導体、GX（グリーントランスフォーメーション）等、今後の地域産業を支える未来産業分野における人材育成や研究開発を支援し、産業技術創出の基盤づくりを推進するとともに、ロボット・DX推進センターや中小企業支援センターを通じて地域企業の生産性向上や経営課題解決に向けた伴走支援を実施した。

また、新たに大学が保有する特許等の知的財産と生成AIを活用し、地域企業の新規事業創出を促進する仕組みの構築を目的とした「地域の価値創造エコシステムの構築事業」（経済産業省中小企業等知的財産支援地域連携促進事業費補助金に採択）を実施した。

さらに、「地域に開かれた学研都市づくり」を目指し、「ひびきの祭」や「デジタルクリエイター教室」等のイベントを通じて地域との交流、連携を深めるほか、国内外のサイエンスパーク等との交流や首都圏等における情報発信を推進し、学研都市の機能強化に努めた。

■具体的な取り組み

【公益目的事業会計】

Ⅰ 北九州学術研究都市の機能強化

1 人材育成の推進

学研都市3大学で学ぶ学生向けとして、学研都市3大学が運営する連携大学院の運営をサポートし、産業界への優秀な人材の輩出を支援するとともに、北九州市立大学が実施している社会人向け人材の育成プログラムである everiPro や everiGo 事業を支援した。

また、地域企業の技術力向上や生産性向上を支援するため、自動車、AI、ロボット、半導体、情報技術等に関する各種セミナー・講座等を実施した。

(1) 連携大学院関連

学研都市3大学による「自動車」「ロボット」「AI」分野に関わる教育を「カーロボ AI 連携大学院」として実施しており、引き続き、同大学院の教育プログラムの運営を支援し、次世代を担うリーダーとして高度専門人材の育成に取り組んだ。（令和7年度修了生：42名）

また、自動車やロボット等の分野においても、センサー技術が不可欠となるなど、半導体の基礎知識を有する人材のニーズが高まっていることなどから、令和7年度は「半導体基礎講座・デバイス試作実習」の科目や実習を増やし、単位取得できる総合実習講座として実施した。

加えて、企業のエンジニアと学生とのディスカッションによる職業観醸成や就職に向けたきっかけづくり（オフサイトミーティング）及びセミナーを開催する等の学生支援を行った。

＊参加企業数：13社、参加学生数：延べ64名

(2) カーボンニュートラルに向けたCASE対応支援事業(人材育成)

自動車関連中小企業の若手や幹部等を対象として、階層別に必要な能力を身につけてもらうため、ものづくりの基本知識・基本技能から方針管理・原価生産管理・部下の育成指導・CASEなどの次世代技術の導入まで、企業の成長に寄与できる人材の育成を行った。

テーマ・講座名	開催日	参加者数
若手・中堅技術者育成カリキュラム ① 方針管理、日常管理、QC サークル ② 作業要領書作成演習 ③ 問題解決手法 ④ QC 手法と演習 [講師] （公財）北九州産業学術推進機構 自動車産業支援参与 中村 聡 コーディネーター 富村 道徳 自動車担当部長 橋本 晃仁 QC サポート F オフィス 代表 古川 孝介	6月17 ～18日	28名
標準化推進リキュラム① ①標準化の重要性 ②作業要領書作成演習 ③作業 FMEA 演習	7月24～ 25日	17名

④作業要領書の改訂 ⑤未然防止型 QC ストーリー [講師] (公財)北九州産業学術推進機構 参与 中村 聡 コーディネータ 富村 道徳 自動車担当部長 橋本 晃仁 QC サポート F オフィス 代表 古川 孝介		
リーダー・幹部育成カリキュラム ① 方針管理、日常管理、小集団管理、人材育成 ② グループ討議 ③ 原価管理、生産性管理 ④ 生産性向上 ⑤GX・DX の推進 ⑥ グループ討議、発表 [講師] トヨタ自動車九州(株) 人財開発室 藤木 雅人 経理部長 片山 輝隆 (公財)北九州産業学術推進機構 自動車産業支援センター長 明石 忠雄 参与 中村 聡 コーディネータ 富村 道徳 自動車担当部長 橋本 晃仁	8月21 ～22日	17名
専門技術者育成カリキュラム 最新のCASE化動向と今後期待される技術～地域の中小企業 はどのように対応すべきか～ 自動車のEV化による地場企業の参入部品とツーリング [講師] (公財)神奈川産業振興センター かながわ自動車部品サプライヤー支援センター チーフコーディネーター 柳原 秀基 日産BEVシステムの技術解説と部品構成 [講師] 日産自動車(株) 車両計画・車両要素技術開発本部 PT・EV システム設計グループ 主担 重松 聡	10月3日	42名
標準化推進リキュラム② ①標準化の重要性 ②作業要領書作成演習 ③作業 FMEA 演習 ④作業要領書の改訂 ⑤未然防止型 QC ストーリー [講師] (公財)北九州産業学術推進機構 参与 中村 聡 コーディネータ 富村 道徳 自動車担当部長 橋本 晃仁 QC サポート F オフィス 代表 古川 孝介	1月15～ 16日	16名
SQC カリキュラム ①QC7つ道具 ②SQCの基礎(データの特性把握、不良率の計算等) ③管理図と工程能力 ④単相関、単回帰、重回帰 [講師] トヨタ自動車九州(株) TQM推進室 主幹 佐々木 康博	2月20日	17名
合 計		137名

また、CASE 等新規事業に取り組む企業の体制強化等を図るため、経営者・管理者を対象に、総合的品質管理活動（TQM）の出前講義を実施した。

受講会社・講義内容	開催日	参加者数
松本工業(株) ①実情説明書確認、本審査プレゼン資料等確認 ②本審査プレゼン資料確認等 ③本審査プレゼン資料確認、現場点検等 ④本審査プレゼン資料確認、現場点検等 ⑤本審査プレゼン資料確認等 ⑥本審査プレゼン資料確認、現場点検等 ⑦本審査プレゼン資料確認、現場点検等 ⑧本審査プレゼン資料確認等 ⑨特性要因図、KPI ツリー等 ⑩現場での日常管理、方針書、アクションプラン作成等 ⑪KPI ツリー、各部方針確認・プロセス目標設定等 ⑫本審査プレゼン資料確認等 ⑬本審査プレゼン資料確認等 ⑭商品開発に関するロードマップ作成、作業 FMEA 等 ⑮現場での日常管理、会社年央点検等 ⑯現場での日常管理、会社年央点検等 ⑰TQM 実践に関する課題すり合わせ等 ⑱デミング賞概要・スケジュール等 ⑲現状の課題洗い出し・今後の改善検討等 ⑳各部署の TQM 点検の実施方法すり合わせ等 ㉑各部署の TQM 点検実施、活動要素の選定等 ㉒各部署の TQM 点検実施、活動要素の選定等	① 4月2日 ② 4月4日 ③ 4月23日 ④ 4月24日 ⑤ 5月8日 ⑥ 5月15日 ⑦ 5月16日 ⑧ 5月27日 ⑨ 6月2日 ⑩ 6月5日 ⑪ 6月13日 ⑫ 6月24日 ⑬ 7月4日 ⑭ 7月10日 ⑮ 7月17日 ⑯ 7月18日 ⑰ 7月29日 ⑱ 2月12日 ⑲ 2月13日 ⑳ 3月11日 ㉑ 3月25日 ㉒ 3月26日	① 5名 ② 5名 ③ 8名 ④ 8名 ⑤ 5名 ⑥ 10名 ⑦ 10名 ⑧ 5名 ⑨ 5名 ⑩ 5名 ⑪ 5名 ⑫ 5名 ⑬ 5名 ⑭ 5名 ⑮ 12名 ⑯ 12名 ⑰ 5名 ⑱ 15名 ⑲ 15名 ⑳ 5名 ㉑ 15名 ㉒ 15名
吉川工業ファインテック(株) ①TQM 教育の目的・狙い、スケジュール等 ②TQM 活動の進め方等 ③工程保証の考え方等 ④QC サークル活動の進め方等 ⑤ビジョン、経営目標、経営戦略の策定等 ⑥工程 FMEA ⑦品質管理等 ⑧方針管理等 ⑨APQP 等 ⑩品質管理等 ⑪日常管理、標準化等 ⑫品質管理等 ⑬品質管理等 ⑭人材育成、組織能力向上等	① 6月9日 ② 7月2日 ③ 7月9日 ④ 7月10日 ⑤ 8月25日 ⑥ 8月26日 ⑦ 9月1日 ⑧ 9月12日 ⑨ 9月19日 ⑩ 10月1日 ⑪ 10月22日 ⑫ 11月11日 ⑬ 12月1日 ⑭ 1月7日	① 6名 ② 13名 ③ 26名 ④ 18名 ⑤ 17名 ⑥ 19名 ⑦ 30名 ⑧ 14名 ⑨ 22名 ⑩ 34名 ⑪ 30名 ⑫ 38名 ⑬ 38名 ⑭ 25名
(株)戸畑ターレット工作所 ①日本品質奨励賞に向けて等 ②TQM 実施状況確認等 ③中期経営計画等の確認、方針管理・日常管理等	① 10月22日 ② 11月26日 ③ 2月9日	① 6名 ② 3名 ③ 3名
(株)野原商会 ①日常管理実施状況確認、取組方針の決定等	① 3月5日	① 2名
合 計		522名

加えて、EV 化等の自動車産業を取り巻く環境の変化に対応するため、自動車メーカー・OB 等のアドバイザーを企業に派遣し、現場改善や TQM 活動の実践を通して EV 化に向けた環境整備や技術の磨き上げなど、各企業の状況に応じた伴走支援を行うほか、EV 車を 1 台まるごと分解展示した「クルマの未来館ひびきの」において、マッチングコーディネータによ

る実物を目の前にした部品や技術の解説等を通して、地元企業の EV 分野など販路の新規開拓支援等に取り組んだ。

【現場派遣】

派遣企業名	指導期間	指導回数	派遣 AD
吉川工業ファインテック (株)	令和8年1月	1回	柳原 AD (日産自動車 OB)
(株)岡崎製作所	令和8年3月	1回	中田 AD (日産九州 OB)

(3) 次世代自動車勉強会

次世代自動車産業拠点の形成に向け、地域企業の自社技術の活用や新たなビジネスチャンス等を検討するための勉強会を開催した。

具体的には、「パーツネット北九州」や「連携大学院」、「北九州自動運転推進ネットワーク」、「自動車関連企業電動化参入支援センター」「北九州 GX 推進コンソーシアム」等と連携を図りながら、CASE 対応など次世代自動車に関する学習や研究等を推進した。

テーマ・講座名	開催日	参加者数
自動車産業セミナー ①「自動車業界における脱炭素化と地方サプライヤー企業の対応策」 PwC コンサルティング合同会社 マネージャー 坪井 圭太 シニアアソシエイト 飯嶋 洸貴 アソシエイト 豊島 優 ②「地域サプライヤーにおける省エネ改善等を通じた脱炭素化の取組事例」 (公財)北九州産業学術推進機構 自動車産業支援センター 参与 中村 聡 ＊九州経済産業局「CN 対応セミナー」と合同 ＊パーツネット北九州と連携	7月3日	104名
GX/DX 推進活動成果発表会 ①「パーツネット北九州での GX/DX 推進について」 (公財)北九州産業学術推進機構 自動車産業支援センターセンター長 明石 忠雄 ②「GX 推進に関する現場支援状況報告」 (株)デンソー九州 取締役 山近 亮一 ③「GX 推進ワーキング参加企業6社の取組事例紹介」 (株)岡崎製作所、(株)戸畑ターレット工作所、(株)野原商会、松本工業(株)、三島光産(株)、(株)陽和 ④「DX 実証事業について (AI による外観検査の自動化)」 九州工業大学 社会実装本部 花手 洋樹 ⑤「(株)デンソー九州での DX 実証事業導入事例紹介」 (株)デンソー九州 AI・DX 推進課長 高咲 龍樹	10月24日	76名

*パーツネット北九州、北九州 GX 推進コンソーシアムと連携		
自動車産業セミナー ①「大変革の時代の中で、今、サプライヤーが求められること ～モノづくりニッポンの未来とは～」 (株)伊藤製作所 代表取締役会長 伊藤 澄夫 ②「大変革の時代の中で、今、サプライヤーが備えるべきこと ～日本品質奨励賞（TQM 奨励賞）への挑戦を通して～」 松本工業(株) 代表取締役社長 舘下 繁仁 *パーツネット北九州と連携	1月29日	101名
合 計		281名

また、連携大学院履修中の学生が、産業界で活躍する技術者の話を聴講し、職業観の醸成に役立てることを目的に、産学交流サロンにて下記のセミナーを開催した。

テーマ・講座名	開催日	参加者数
①「産業会で活躍する技術系人材に求められるものとは」 東芝デバイス&ストレージ(株) パッケージ&テスト技術開発 センター パッケージソリューション技術開発部 部長 岡野 資睦 ②「連携大学院における人材育成の狙い～今年度前半の活動を 振り返って～」 九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 田向 権 ③「オフサイトミーティングの就職活動への活かし方」 九州工業大学 大学院生命体工学研究科 人工知能システム 工学専攻修士2年 吉村 航 ④「オフサイトミーティング開催について」 (公財)北九州産業学術推進機構 自動車産業支援センター コーディネータ 富村 道徳	10月8日	60名

(4) 北九州市立大学関連(everiGo 関連)

北九州近郊でシステムエンジニアを目指す IT 未経験の方向けの WEB 系システム開発プログラマ育成プログラム everiGo（事業主体：北九州市立大学）について、地域のデジタル人材育成事業の一環として、プログラム運営に関するアドバイスや連携先企業の紹介などを行った。

*令和7年度受講者数：41名

(5) AI人材の育成

人工知能（AI）に関する技術については、フィジカル AI を筆頭に社会全体を変革するキーテクノロジーとして世界中で研究開発が進められている。学研都市には国内有数の AI 関連の研究者が集積しており、これらの研究者等によって構成された「ひびきの AI 社会実装研究会」での検討を踏まえた取組が進められている。具体的には、福岡県工業技術センターの課題解決に取り組みスパースモデリングを用いたバイオプラスチック配合の物性予測に関する取組を進めたほか、AI 育成カリキュラムの企業研修への提供、令和元年度から「カーロボAI連携大学院」の

一貫として、「AI セミナー」が運営されている。

(6) ロボット・IoT・AI 等を活用した生産性向上支援（現場技術者向けスクール）事業

【DX部：デジタル編】

企業がDX 推進などにより生産性向上を効果的に進め、さらに付加価値創造を考える業務改革（BPR）とデジタル技術の有効な活用策をテーマとした連続したスクールを開催した。

スクール事業の講座は、デジタル編4 講座×2 回、計8 回で構成し、予定していた講座はすべて実施した。受講者は延べ76 名、受講企業数は24 社で北九州市内企業が中心であったが、市外からの受講参加もあった。

No.	科 目	講師	開催日	受講者数
1	生産性向上とは何か～業務効率化と付加価値創造	北九州市立大学 平川産業(株)	11 月 14 日	11 名
			1 月 23 日	10 名
2	業務プロセス再設計で実現する企業強化～業務改革 BPR～	(株)シティアス コム	11 月 21 日	9 名
			1 月 29 日	11 名
3	DX とイノベーションの創出～付加価値創造を考える～	(株)シティアス コム	11 月 28 日	5 名
			2 月 5 日	12 名
4	人材育成と社員スキル～業務改革と付加価値創造を支える人づくり～	(株)Bottok	12 月 5 日	10 名
			2 月 13 日	8 名
合 計				76 名

【ロボット部】

製造現場の管理者・現場リーダーなどを対象に、生産性向上や新規事業開拓に必要なロボット・IoT・AI といった新技術を身に付けるための研修（スクール事業）を実施した。

スクール事業の講座は、IoT・デジタル編5 講座、ロボット編5 講座で構成し、予定していた講座はすべて開講した。

受講者は延べ94 名、実質受講企業数は46 社（デジタルIoT 編36 社・ロボ編10 社）で北九州市内企業が中心であったが、市外からの受講参加もあった。

	No.	科 目	開催日	受講者数
ロボット編	1	産業用ロボット基礎講座	10 月 2 日 10 月 10 日 10 月 16 日 10 月 17 日 10 月 21 日	15 名
	2	産業用ロボット活用講座	11 月 6 日	3 名
	3	人協働ロボット基礎講座	10 月 9 日 10 月 30 日	6 名
	4	人協働ロボット活用講座	10 月 23 日	4 名
	5	ロボットシミュレータ活用講座	11 月 27 日	4 名
合 計				94 名

(7) 市内企業の生産性向上のための提携セミナーの運営

【DX部】

デジタル関連企業等と提携し、地域企業の生産性向上に繋がるセミナーを開催した。公募により募集した 11 社と提携して、計 11 回の操作体験型のセミナーを開催した。受講者は、地域企業を中心に延べ 86 社 100 名であった。

講 座 名	提携企業	開 催 日	受講者数
生成 AI 業務活用セミナー～無料から試せる！生成 AI を業務で活用する 3 ステップ～	(株)VIVINKO	7 月 23 日	17 名
営業の人員不足と属人化を仕組みで解決する“営業 DX の初手”解説セミナー	(株)etika	8 月 20 日	10 名
DX って本当に必要？デジタル化で業務はどう変わる？- 身近な業務改善から考える、DX のはじめの一步 -	(株)エンビジョンナッジ	8 月 21 日	9 名
生成 AI+kin tone で変わる現場の効率化 ～限られた時間と人材を活かす術～	ギグワークスクロスアイティ(株)	9 月 18 日	9 名
IoT 活用による製造現場カイゼンセミナー	イジゲングループ(株)	9 月 19 日	5 名
開発現場・製造現場・現場管理を IoT サービスや AI を利用して改善セミナー	(株)ユビキタス AI	10 月 28 日	7 名
いまさら聞けない ChatGPT 入門	コネクト合同会社	10 月 31 日	17 名
「DX、何から手をつけるべき？」業務効率化の新常識“BPaaS”を基礎から学べるセミナー	(株)kubell	11 月 5 日	5 名
ハンズオンで学ぶ！生成 AI 活用術	(株)インターネットイニシアティブ	11 月 19 日	8 名
中小企業の情報セキュリティをゼロから考えるワークショップ	ストラテジア	12 月 2 日	9 名
業務改善と DX 成功の秘訣は“情報の流れ”にある！～会議・業務改革の実例から学ぶ生産性向上セミナー	クロスディーズ (佐々木総研グループ)	12 月 3 日	4 名
合 計			100 名

【ロボット部】

ロボット及びデジタル関連企業等と提携し、地域企業の生産性向上に繋がるセミナーを開催した。公募により募集した 7 社と提携して、計 9 回の実機見学・操作体験型のセミナーを開催した。受講者は、地域企業を中心に 48 社 127 名であった。

講 座 名	提携企業	開 催 日	受講者数
ロボット制御を簡単に！ ～NC データでのロボット制御・CAD/CAM 最新情報のご紹介～	(株)ブレイン シーメンス(株)	7 月 16 日	16 名
屋内位置情報システムによる自律搬送機の実演デモセミナー	(株)ネクスティエレクトロニクス	8 月 6 日	6 名
協働ロボット・最新技術体験セミナー	ファナック(株)	8 月 27 日	12 名
AI カメラ付協働ロボ活用セミナー	プレミアエンジニアリング(株)	9 月 10 日	10 名
IoT/GX 講座セミナー	三菱電機(株)	9 月 18 日	14 名
ロボットシステムセミナー	三菱電機(株)	10 月 3 日	9 名
最新アーク溶接ロボットセミナー	(株)ダイヘン	10 月 24 日	10 名
PLC（シーケンサ）・エンジニアリングツール操作体験セミナー	三菱電機(株)	11 月 20 日	13 名
自動化事例紹介セミナー	フォースウェーブ・パートナーズ(株)	1 月 15 日	9 名
合 計			99 名

(8) 半導体人材育成事業

半導体関連企業技術者を養成する取り組みとして、これまでの「ひびきの半導体アカデミー」の内容を見直し、市域企業や高専等のニーズを反映した、半導体のものづくり全体像を学ぶ基礎講座等を 6 講座実施した。

講 座 名	開 催 日	受講者数
半導体活用基礎講座（高専専用）	5 月 28 日	33 名
半導体活用基礎講座オンデマンドセミナー	8 月 4 日～9 月 5 日	14 名
パワーシステムマイコン制御講座	9 月 20 日	4 名
半導体製造プロセス体験実習	9 月 26 日	4 名
半導体技術者検定エレクトロニクス 3 級セミナー	10 月 22 日	19 名

半導体活用基礎講座オンデマンドセミナー	12月1日～12月31日	11名
合 計		85名

(9) エグゼクティブビジネススクールの運営

DX（デジタルトランスフォーメーション）、第4次産業革命が進む中で、デジタル技術を活用し、成長を目指す中小ものづくり企業の経営層向けに、エグゼクティブビジネススクール（主催：北九州工業高等専門学校、共催：早稲田大学大学院情報生産システム研究科・北九州市・（公財）北九州産業学術推進機構）を開催し、延べ43社52名が受講した。

デジタル技術による、生産性向上、業務革新、事業成長、技術継承、人材育成、国際基準への準拠等の様々な利点について理解を深め、自社の進むべき将来像を描けるようになってもらうための講座であり、特別講座（ものづくり編・流通編・物流編）を3回、本講座を5回実施した。

(10) 風力人材育成事業

北九州港港湾区域をはじめ、全国的に洋上風力発電の推進が謳われている現状を踏まえ、ドイツ・ブレーマーハーフェン大学の協力を得て、ヨーロッパで開催されている洋上風力経営学修士号講座（OWEMBA）の日本導入を目指し準備している。

令和8年2月には、ヨーロッパのOWEMBAチームの協力を得て、風力関係の社会人を対象にOWEMBAを紹介するオンライン・コースの教材を準備し、同年秋にオンライン講座を開催することを準備している。

また、北九州市と北九州市立大学が連携して夏に開催している洋上風力キャンプや、長崎大学がリードし、北九州市立大学もメンバーである「産学連携洋上風力人材育成コンソーシアム（IACOW）の取組にも協力した。

2 学研都市の国際化の推進

「アジアの中核的研究拠点」としての学研都市の発展を目的に、学研都市内の大学に在籍する留学生を対象に、奨学金の給付、住宅費の助成、就職支援講座や日本語講座の提供を行うとともに、留学生支援活動を行う団体に対して、助成を行った。こうした留学環境の整備により、年々、留学生が増加している。

(1) 留学生支援事業(生活等)

① 留学生奨学金給付事業

優秀な留学生の集積を図るため、奨学金を給付した。

＊奨学金：11,100千円（給付人数〈延べ〉：37名）

※年間60万円/人、秋期入学は30万円

② 住宅費助成金交付事業

教育研究活動に専念するための生活支援として、各大学が提供する宿舍等に入居することができず、民間の賃貸住宅等に入居する留学生を対象として、家賃等の助成を行った。

＊助成額：8,291千円

③ 留学生交流事業補助

学研都市の留学生と地域住民との交流事業などを支援するため、NPO法人やボランティア

団体が実施する留学生支援活動に対し助成を行った。

＊助成額：600千円

（内訳）特定非営利法人学研都市留学生支援ネットワーク：300千円、
学研ボランティアの会：300千円

(2) 留学生支援事業(教育等)

① 留学生就職支援プログラム事業

学研都市の3大学（北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学）で日本企業に就職を希望する修士留学生を対象に、就活日本語講座、就職セミナー等の就職支援プログラムを実施した。
令和7年度はオンラインと一部対面で実施した。

＊受講生 23名（早稲田大学19名、北九州市立大学2名、九州工業大学2名）

＊参 考 令和6年度プログラム受講生17名の就職先

東芝デバイス&ストレージ(株)、日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)、
(株)東芝、ホンダ技研工業(株)、ウエスタンデジタル、NRI システムテクノ(株)、ルネ
サスエレクトロニクス(株)、コンチネンタルオートモーティブ(株)、アステモ(株)
(2)、ONE DEJIMA(株)、ダイハツディーゼル(株)、スズキ(株)、三菱ケミカル
エンジニアリング(株)、イーテクノロジー(株)、日立建機システム(株)、パーソナル
テクノロジー(株)

② 語学教育センター運営事業

学研都市の留学生や外国人研究者の日本語習得支援のために日本語講座を実施した。

＊日本語講座：春期：5クラス 秋期：6クラス （週2回）

講 座：春期：初級1.2.3.4.、中級会話

秋期：初級1.2.3.4.、中級会話

受 講 者 数：春期：61名 秋期：70名

受 講 料：大学の在籍形態による。

③ インターンシップ事業

学研都市の留学生に北九州市内の企業を知ってもらうことを目的として、市内
の企業3社を見学し、企業担当者と留学生で意見交換をした。

＊訪問企業 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)、GMO インターネットグループ(株)
(株)安川電機

＊参加者 57名（内訳 北九州市立大学1名、九州工業大学11名、早稲田大学45名
中国50名、バングラデシュ1名、台湾2名、インド2名
インドネシア1名、ベトナム1名）

(3) 海外大学等連携促進事業

令和7年6月に市長による新竹サイエンスパークの視察を行った。

同6月には台北科技大学の学長が来訪し、半導体研究開発施設やロボット・DX推進センタ
ーの視察やインターンシップ等に関する意見交換を行った。

また、同7月にはインド中央政府やインド工科大学の関係者が来訪し、半導体研究開発施設
の視察や半導体分野の人材育成等に関する意見交換を行った。

3 学研都市の効果的な運営

(1) 大学間連携促進事業

産学連携、大学間連携及び学術情報等に関する協議を行うため、学研都市の大学の代表者等によって構成されるキャンパス運営委員会を開催した。

(2) 学研都市 PR 事業

学研都市及び FAIS について様々な機会や手法を活用し、国内外への情報発信を行った。

① 国内外研究者等の受け入れ

学研都市に来訪した多数の研究者や企業等に対し、学研都市の設立目的や個別施設の概要、産学連携活動の取り組みや成果等を紹介した。

＊海外：25 件、327 名 ＊国内：169 件、1,260 名

② 積極的な情報発信

FAIS 事業概要(アニュアルレポート)や学研都市紹介パンフレットの発行、市政記者等クラブ向けのプレスリリース(27 件)、新聞等への広告掲載に加え、公式 SNS の運用や SNS 広告の発出、プレスリリース配信サイトを使った情報発信など、学研都市の認知度向上に取り組んだ。

その結果、テレビや新聞等で 148 件の報道があった。

＊報道件数内訳：テレビ・インターネット等 54 件、新聞 94 件、雑誌等 0 件

③ 学研都市サイエンスカフェ

学研都市の研究者と市民が自由な雰囲気の中で気軽に交流しながら最新の科学情報に触れられる「サイエンスカフェ」を開催した。(早稲田大学 馬渡 和真 教授)

回	テーマ	開催日	参加者数
第 29 回	色について考えよう ～なぜ色ができるのか～	8 月 3 日	34 名

④ コミュニティ FM 放送による情報発信

学研都市に本社スタジオがある Air Station Hibiki(株)を活用し、毎週木曜日の午後 3 時から 4 時まで、学研都市と地域を結ぶラジオ番組「学研都市へ行こう！」を放送した。

学研都市内の大学(院)・研究機関・企業などの研究者や学生などが、研究開発情報の紹介、セミナーやイベントの告知等を行い、ラジオを通じて情報発信した。 ＊放送回数：51 回

⑤ 学研都市コンベンション開催助成金交付事業

学研都市内で開催されるコンベンション等の主催者に対し、開催に係る経費の一部を助成することにより、学研都市へのコンベンション誘致と知名度向上に努めた。

＊助成件数 2 件

(九工大：トマトロボット競技会、早大：国際シンポジウム)

⑥ ひびきの祭

地域の人々との交流の促進と学研都市の認知度の向上を図るため、「北九州市立大学大学祭(響嵐祭)にあわせて「ひびきの祭」を開催した。(同日開催予定だった地域住民主催の「ひびきの秋祭り」は雨天により中止)

学研都市内の各大学のほか、産業医科大学やトヨタ自動車九州による体験型ブース出展もあり、「ひびきの秋祭り」が中止となったにも関わらず、昨年を上回る約 5,900 人が参加した(開催日：令和 7 年 11 月 9 日(日))。

(3) 学術研究施設等管理運営事業

①学術研究都市施設の管理運営

学研都市の指定管理者として、学研都市内施設の効果的・効率的な管理運営を行うとともに、利便性及び安全性向上に向けた取り組みを行った。

【管理を行った施設】

- ・産学連携センター(1号館) ・産学連携センター別館 ・共同研究開発センター(2号館)
- ・情報技術高度化センター(3号館) ・事業化支援センター(4号館)
- ・技術開発交流センター(5号館) ・環境エネルギーセンター ・クラブセンター
- ・学術情報センター ・会議場 ・体育館 ・運動場 ・テニスコート

【研究室の入居状況(令和8年3月末現在)】

入 居 施 設	室 数	入居室数	入居企業等の数
産学連携センター (1号館)	31	24	9
産学連携センター別館	9	5	3
共同研究開発センター (2号館)	7	5	4
情報技術高度化センター (3号館)	34	15	9
事業化支援センター (4号館)	56	42	29
技術開発交流センター (5号館)	49	47	13
合 計	186	138	67

*企業等の数について、複数施設入居の場合は各々の施設で計上

②情報システム機能改善

学研都市内の情報通信ネットワークの効率的かつ効果的な運営を行うとともに、IT環境の変化に対応した環境構築を促進した。

区 分	実 施 内 容
情報通信関係	・学術研究都市情報通信基盤の運用・保守(安全・安定性確保) ・装置老朽化及びメーカー保守終了対応(安全・安定性確保) - 一般図書室インターネット検索端末更新(3台) - 専門図書システム業務端末更新(6台) - キャンパスカード発行システムサーバ及び発行プリンタ更新 - 来訪者用 Wi-Fi アクセスポイント更新(13台) ・サービス利用申請システム機能統合(安定性確保) ・来訪者用 Wi-Fi 拡充(機能向上) - 産学連携センター(3、4階リフレッシュコーナ) - 事業化支援センター(3、4階ミーティングスペース) ・遠隔講義室1場内カメラ更新(機能改善) ・学術情報センターモニタリングカメラ更新(安全性確保) ・貸出図書読み取り装置製作(サービス向上)

③図書館の機能及びサービス改善・向上

区 分	実 施 内 容
共通	・ヒビキノシネマ開催(4月、6月、8月、10月、12月、2月) ・展示コーナーの市民利用(4件) ・講演会「マンガやアニメで探そう!自由研究のテーマ!!」開催 ・「図書室で推理ゲーム ぬすまれた本を探せ!」開催

一般図書室	・近隣小学校学外授業による見学の受入 ・毎月の特集コーナー展示 ・図書・雑誌リサイクルフェアを開催 ・DVD 上映会、おたのしみ会の開催 ・探しやすい配架の工夫（サービス向上） ・児童書架照明および 2F 閲覧机照明 LED 化（機能改善）
専門図書室	・特集コーナーの展示 ・学生が読みたい本を自ら選ぶ「Web 選書」を実施 ・英語論文の書き方セミナー開催（オンライン） ・新入生向け「スカベンジャーハント」実施 ・授業内でのガイダンスの実施（サービス向上） ・専門図書室の電子資料充実（データベース、電子書籍）

【図書館利用状況】＊（ ）内は令和 6 年度の実績

区 分	開館日数	入室者(人)	貸出利用者(人)	貸出冊数(冊)	蔵書数(冊)
一般図書室	335 (331)	81, 516 (81, 921)	21, 613 (21, 791)	76, 833 (80, 672)	57, 226 (57, 233)
専門図書室	335 (331)	49, 320 (49, 917)	6, 058 (5, 991)	11, 576 (11, 008)	110, 451 (109, 255)
合 計	－	130, 836 (131, 838)	27, 671 (27, 782)	88, 409 (91, 680)	167, 677 (166, 488)

④学術情報センターの機能向上

区 分	実 施 内 容
イベント	「スタジオ・コンテンツ制作室利用体験」を開催 (2025 年 6 月～2026 年 3 月の火・木曜日)
	「デジタルクリエイター教室（動画編）」を開催 小学 5 年生対象に、学校タブレットを使用した動画作成教室を、 学術情報センター遠隔講義室 1 にて、以下の内容で開催 ・2025 年 12 月 8、12 日 … ひびきの小学校（225 名） ・2025 年 12 月 10 日 … 光貞小学校（98 名） ・2025 年 12 月 17 日 … 小倉中央小学校（54 名）←公募校 また、事前に教員向けの教室を以下の内容で開催 ・2025 年 10 月 10 日 … ひびきの、光貞小学校合同（11 名） ・2025 年 12 月 3 日 … 小倉中央小学校（21 名）現地開催
ひびきのあそび場	小学生向けに、多目的ルームに地元企業が製作した IT を活用した遊んで学べる装置を設置し、北九州市の施策「こどもまん “なかま”」の「こどもまちなかスペース」に申請登録して、学研都市の認知度アップと施設の利用を促進

II 産学連携による技術力の強化及び新事業の創出、生産性向上等の取組

1 情報発信と連携の場の創出

(1) 産学連携推進事業

学研都市の研究者情報等の技術シーズや研究成果を積極的に発信するとともに、最新の技術動向の収集や国その他関係機関とのネットワーク強化を通じて、産学連携の基盤づくりを進めた。

①産学連携促進のための情報収集・発信

学研都市のポテンシャルを広くPRするため、様々な媒体により、研究者の情報（5機関、約180名）のPRを行った。

- ・「研究者情報」の改訂

リーフレット（日本語）2,500部、ホームページへの掲載（日本語・英語）

- ・「研究室最前線」による研究者インタビュー

学研都市の注目の研究者のインタビュー記事を、学研都市ホームページ及び研究者情報のサイトに掲載（年2回）

情報発信機能のPRとネットワーク拡大を目的に、メールマガジン「産学連携センターNews」を約7,400名50回配信し、国等の公募事業や産学連携イベント情報などタイムリーな情報提供を行った。

②産学交流サロン

学研都市において産学連携の動きが次々と生まれる環境づくりを目的に、特定の技術テーマについて、産学官で自由にディスカッションする「産学交流サロン」（5回開催、延べ356名参加）を開催した。

回	テーマ・講座名	開催日	参加者数
第218回	「研究DXを加速するデータ知識化技術」 ～ひびきのAI社会実装研究会の取組み～	10月1日	30名
第219回	北九州市・FAISサプライヤー応援隊事業 「専門技術者育成カリキュラム」	10月3日	42名
第220回	「産業界で活躍する技術系人材に求められるものとは」 ～第12回カーロボAI連携大学院交流会～	10月8日	60名
第221回	合同企画 第19回IPS海外連携シンポジウム （ISIPS2025）	11月28日	200名
第222回	第65回北九州医工学会学術者会議 「次世代研究分野の醸成に向けた医・歯・工の連携」	11月14日	24名

2 研究開発の支援と事業化の推進

(1) 研究開発プロジェクト支援事業

北九州市内の大学・企業等の研究開発力の向上とともに、北九州市における産業技術の高度化や新産業の創出及び産業振興に資する研究開発を支援した。

①シーズ創出・実用性検証事業

産業振興の促進に資する分野に関し、革新的な科学技術イノベーションの創出を目指した社

会的インパクトの大きな研究開発や国等の大型事業への展開が期待できる大学等研究機関の研究開発に対して助成するもの。

- ・補助額：一般枠、若手・チャレンジ枠共に 200 万円以内／年（単年度補助）
- ・補助率 1／1

【補助実績】 11 件（若手・チャレンジ枠：6 件、一般枠：5 件）

採択テーマ名	申請大学等
すい臓がんの早期診断のための電気化学的 miRNA 検出法の確立	九州工業大学
光応答型気孔制御とナノキャリア技術を融合したペプチドバイオスティミュラント剤の革新的導入法の開発	九州工業大学
AI 連携高分解能テラヘルツ波放射顕微鏡による半導体非破壊不良識別システムの開発【若手】	早稲田大学
難環境を突破する超遠隔キャストマニピュレーション技術の研究開発	九州工業大学
ホームサービスロボット市場の拡大を目標とした住宅の物理規格の策定に向けた研究 一団地住戸におけるホームサービスロボットの物理支障の要件解明ー【若手】	九州工業大学
よりよい水素社会の実現を目指した革新的多孔質ナノ孔結晶の工業利用【若手】	北九州市立大学
細胞老化に着目した関節包線維化の病態解明と関節拘縮予防治療法の開発	産業医科大学
MR (mixed reality) 技術を用いた獣医療従事者向け放射線防護教育支援システムの実用化【若手】	産業医科大学
次世代高耐電圧パワーモジュールのための絶縁破壊強度予測モデルの研究【若手】	九州工業大学
Superworm driven plastic degradation and frass utilization as a low energy bioconversion platform for the future of waste （低炭素社会に向けた低エネルギー生物変換プラットフォーム：スーパーワームによるプラスチック分解と糞尿利用）【若手】	九州工業大学
雨水から純水を製造する孔拡散分離型省エネ流体分離モジュールの開発	北九州高専

※【若手】：若手・チャレンジ枠

②実用化研究開発事業

産業振興の促進に資する分野に関し、実用化が見込まれる新技術・新製品の研究開発や国等の大型事業への展開が期待できる研究開発に対して助成するもの。

- ・補助額：500 万円以内／年（単年度補助）
- ・補助率： 中小企業 2/3 中小企業以外 1/2

【補助実績】 2 件

採択テーマ名	申請企業等
ハイブリッド幹細胞の開発と再生医療応用	ハインツテック(株)
生プラセンタなど生素材に含まれる活性成分の安定化技術開発	(株)FIL TOM

③未来産業イノベーション創出事業

半導体、自動車、グリーン関連産業等の未来産業イノベーション創出に資する分野において、実用化が見込まれる新技術・新製品の研究開発や国等の大型事業への展開が期待できる研究開発に対して助成するもの。

・補助額：単独300万円以内／年（単年度補助）、連携1000万円以内／年（単年度補助）

・補助率：大学等 1/1 中小企業 2/3 中小企業以外 1/2

【補助実績】3件

採択テーマ名	申請企業等
大温度差から大規模発電を実現する温度差発電デバイスの技術基盤構築	北九州高専
ダイヤモンド表面伝導メカニズムによる次世代パワー半導体の実現	九州工業大学
既存車両を無改造で操作可能な4肢ロボット技術と多分野展開に向けた仮想検証基盤の開発	早稲田大学

④衛星データ利活用実証・新技術開発事業、宇宙関連機器新技術開発事業

成長が見込まれる宇宙関連分野の衛星データ（観測・測定・通信の各データ）の利活用モデルの実証や新たな技術開発及び宇宙関連機器等に関する新技術開発に対して助成するもの。

・補助額：大学等単独・大学等連携・企業等単独：200万円以内／年（単年度補助）、企業等連携・大学等と企業等との連携：500万円以内／年（単年度補助）

・補助率：大学等 1/1 中小企業 2/3 中小企業以外 1/2

【補助実績】5件

採択テーマ名	申請企業等
超小型衛星用デジタルフラックスゲート磁気センサの宇宙実証に向けたエンジニアリングモデル開発【機器】	九州工業大学
北九州における革新的な宇宙通信機器の製造に向けた要素技術の研究【機器】	九州工業大学
不均一な熱負荷に対応する沸騰冷却用コールドプレートの研究開発【機器】	兵庫県立大学 北九州市立大学
インドネシアにおける衛星光学データを活用した熱・CO ₂ ・植生変化のセンシングによる泥炭森林火災の早期検知、消火判定、森林再生の評価法の開発【データ】	北九州市立大学
誰にでも扱える宇宙機用衝撃試験装置の開発【機器】	(株)空宙技研

※【機器】：宇宙関連機器、【データ】：衛星データ実証

(2) 旭興産グループ研究支援事業

旭興産グループの支援を得て、北九州地域から未来を創造するテクノロジーを生み出すため、新しい時代に予見される課題の解決につながるようなテクノロジーに関する研究に対して助成する。対象は北九州市内の大学、大学院、高等専門学校及び九州工業大学飯塚キャンパス並びに西日本工業大学おばせキャンパス。

①若手研究者ステップアップ支援

若手研究者（博士の学位取得後８年未満又は３９歳以下の者）が行う研究開発で、斬新、独創的かつ挑戦的で将来の発展が見込まれるものに対して助成する。

＜Ａタイプ＞ 補助額：１０００万円以内／３年間 補助率：１／１

＜Ｂタイプ＞ 補助額：５００万円以内／３年間 補助率：１／１

※補助期間は申請の翌年度から最長３年間

【補助実績】９件

採択テーマ名	申請大学等
天然歯と同様の機能を持つ次世代人工歯の開発	九州歯科大学
温泉バイオエンジニアリングを用いた生物学的メタネーション	北九州市立大学
細菌と歯科の革新的技術：歯および歯科材料の“自己治癒”の実現	九州歯科大学
ハロゲン化ペロブスカイト熱電変換材料を用いた薄膜型高性能フレキシブル熱電変換素子の開発	九州工業大学
機電一体型不平衡電圧補償器付誘導機の主回路方式およびトルクリプルモニタリングシステムの研究	九州工業大学
レアアース系超電導線材のリサイクル技術開発	九州工業大学
患部の細胞機能若返りを実現する骨模倣人工骨補填材の開発	北九州市立大学
大学運動部活動における早期離脱予防のためのメンタルトレーニングプログラムの開発	九州共立大学
サービスロボットをターゲットにした知的処理割り振りコントローラの開発	北九州高専

(3) 国等研究開発プロジェクト受託事業

国等からの研究開発・人材育成資金を活用した産学共同研究プロジェクトを運営実施した。

令和７年度は、市内の企業等と共同プロジェクトを進め、知財の価値を新たに創出する持続的な仕組みの構築を行った。

所管	事業名称	事業期間	参画大学	公的研究機関	参画企業数
経産省	大学の知的財産と生成 AI を組み合わせた地域の価値創造エコシステムの構築	令和７年度	１	１	２

また、市内の企業や大学等が外部資金を獲得するための支援を行った。

所管	事業名称	申請主体	研究テーマ等	事業費 (千円)
経産省	Go-Tech 事業（成長型中小企業等研究開発支援事業）	市内企業等	支援件数：1 件 採択件数：0 件	—
消防庁	消防防災科学技術研究推進制度	北九州市立大学	支援件数：1 件 採択件数：1 件	6,642

(4) 産学連携推進事業（研究会運営等）

新産業創出の基盤となる先端技術分野、最新のものづくり加工技術分野等について、市場予測や技術開発動向等の基盤情報に関する調査等を行うとともに、具体的なプロジェクト創出を目指した研究会を運営した。

主な研究会名	参 画 機 関
北九州革新的価値創造研究会（カチケン）	大学等 5 機関、企業 17 社、 公的機関 3 機関
ひびきの AI 社会実装研究会	大学等 4 機関、企業 2 社、公的機関 3 機関
太陽光発電と耐荷重計算等（PV 耐荷重等）研究会	大学等 2 機関、企業 1 社、公的機関 2 機関

(5) 人工知能研究の拠点化推進事業

AI 技術を活用したスマートな街づくり、社会システムづくりを目指し、「ひびきの AI 社会実装研究会」を中心に、AI 技術の社会実装の研究開発を推進するとともに、AI 人材の育成に取り組んだ。

① 研究開発の推進

AI の社会実装に向けた企業のニーズと、研究会構成委員の技術シーズのコーディネートを行い、人の理解しやすさの向上、人との親和性の高いシステム構築に貢献する基盤技術（スパースモデリング）を用いたバイオプラスチック合成の配合比率による物性予測などのテーマについて研究開発を推進したほか、民間企業の画像診断による予想技術の課題解決にも着手した。

② AI人材育成事業（再掲）

7 ページ I 1（5）に掲載

(6) 「学研スタートアップ支援及び HIBIKINO ODORIVA の運営」について

学研都市に関わる人たちが互いに交流し共創していくコミュニケーションスペース「HIBIKINO ODORIVA」を、令和 5 年 10 月 13 日に開所し、①グローバルなコミュニティの形成、②分野を超えた学びと研究の促進、③チャレンジ精神やリーダーシップの醸成をコンセプトに、主催イベント等のほか、北九州市や大学等と連携し、セミナーやイベント等を開催した。

① 学研スタートアップ支援

スタートアップ創出件数は 1 件となった。

また、スタートアップに関連した相談対応、支援、各種情報提供件数は 41 件となった。

② HIBIKINO ODORIVA の運営

【令和7年度の会員登録数、利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
会員登録数(名) (前年度実績)	74 (93)	23 (41)	32 (31)	36 (36)	29 (18)	23 (10)	14 (39)	26 (36)	10 (33)	8 (33)	22 (28)	20 (23)	317 (421)
利用者数(名) (前年度実績)	880 (508)	971 (653)	1025 (594)	1055 (725)	575 (375)	509 (306)	1173 (779)	906 (728)	941 (717)	694 (784)	442 (410)	368 (593)	9539 (7172)

【主なイベント】

開催日	イベント名	主催者	参加者
5月22日 他	留学ゆるトーク 計4回開催	FAIS	69名(延)
5月23日 他	ODORIVA酒場 計4回開催	FAIS	188名(延)
7月16日	The Partyz @学研都市	FAIS	37名
12月3日 他	大学向けSNS発信力向上講座	FAIS	29名

(7) 学研都市を中心とした GX(グリーントランスフォーメーション)の推進

「北九州 GX 推進コンソーシアム」

カーボンニュートラルへの変革を成長の好機ととらえ、「北九州 GX 推進コンソーシアム」を令和5年12月に創設した。

この「北九州 GX 推進コンソーシアム」の枠組みを活用して、北九州学術研究都市等での研究開発など、北九州のポテンシャルを活かした産業集積や、地域企業の成長、新産業を創出することで、「稼げるまち」北九州市の実現を目指し、4つの視点（①最先端の研究開発・社会実装、②GX関連産業の集積、③GX人材の育成、④地域企業のカーボンニュートラルや地域企業の変革に向けた支援）で、以下の取組を進めた。

会員数は、令和8年3月末時点で404社・者（個人含む）となっている。

①総会「北九州 GXDay2026.2.9」開催

金融機関との合同イベントとして、北九州国際会議場にて対面形式で開催し、約270名が参加した。（R8.2.9開催）

<総会概要>

ア テーマ：GX×金融×企業成長

イ プログラム：

- ・第1部 北九州 GX 推進コンソーシアム総会

- ・基調講演①

- ・基調講演②

- ・第2部 金融機関との共同イベント

- ・福岡銀行の取組紹介

- ・パネルディスカッション①

- ・パネルディスカッション②

- ・第3部 オープンイノベーションネットワーキング

ウ 主な登壇者：日本製鉄株式会社 折橋英治氏、GX 推進機構 重竹尚基氏、

株式会社福岡銀行 大石聡一郎氏・神園龍一氏、FDSF 小野塚恵美氏、
GX推進機構 高田英樹氏 等

※その他、北九州市長（コンソーシアム会長）（開会挨拶）を始め、GX 推進に積極的
に取り組む企業や、ESG 広域連携協定を締結している福岡ひびき、尼崎、浜松いわ
た、川崎の4信用金庫、IGES 赤木純子氏等が登壇

②共創の場の創設

②		開催セミナー等（参加人数）
次世代燃料・カーボンリサイクル部会		・ワークショップ（30 名）
未来共創 部会	ひびきの宇宙研究会	・キックオフイベント（31 名）
	建築物（木造建築）	・セミナー（53 名）
	森林火災カーボンクレジット 研究会	・研究会 2 回開催（のべ 19 名）
自動車部会		・セミナー（104 名） ・第 1 期ワーキンググループ成果発表会 （76 名） ・第 2 期ワーキンググループ 2 回開催 （4 社）
半導体部会		・セミナー（134 名）

③GX 推進補助金

北九州市における GX に資する新ビジネスの創出及び官民 GX 投資を促進することを目的
として、GX 推進補助事業を創設・実施。

- ・補助額：500万円以内／年（単年度補助）
- ・補助率：1/2
- ・補助実績：4 件

山九株式会社、株式会社ウエルクリエイト、株式会社西日本ガラスリサイクルセンター、
株式会社北九州パワー

④ワンストップ相談窓口・専門家派遣及び情報発信

ア ワンストップ相談窓口実績

- ・登録専門家数：17 社（R 8.3月末現在）
- ・相談申込件数：11 件
- ・専門家派遣回数：23 回

イ 専用 WEB サイト実績

- ・ページビュー数（計約 92,200PV、月平均約 7,700PV）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6,147	6,549	8,455	10,065	6,744	6,726	7,291	5,179	6,339	12,000	10,162	6,544

⑤GX 意識の啓発・醸成活動、広報・周知活動

ア 意識啓発・機運醸成イベントの開催

- ・GX 関連補助金等支援制度セミナー（オンライン 65 名参加）
- ・そもそも GX って？～気候変動の時代を生き抜くために～ オンライン 71 名参加
- ・What's Sustainable Finance? ワークショップ 対面 28 名参加

イ GX 推進企業取材・コンソーシアムホームページへの掲載

取材企業：1社

株式会社西日本ガラスリサイクルセンター

ウ 展示会出展

展示会・イベント	開催日	ブース 来場者数
・課題解決 EXPO2025（北九州市 DX 推進プラットフォーム） 主催：北九州市、（公財）北九州観光コンベンション協会 開催場所：西日本総合展示場	7月2日～ 7月4日	60名
・第18回川崎国際環境技術展 主催：川崎国際環境技術展実行委員会 開催場所：カルッツかわさき（川崎区富士見1-1-4）	11月12日 ～ 11月13日	225名
・令和7年度地域脱炭素の実現に向けた地方公共団体と企業とのマッチングイベント 共催：九州地方環境事務所、経済産業省九州経済産業局、 一般社団法人九州経済連合会 開催場所：AIM3階展示場	12月19日	8社
・エネルギーイノベーション総合展 （再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム2026） 主催：再生可能エネルギー協議会 開催場所：東京ビックサイト ※活動が活発化してきた部会をテーマに出展・セミナーを開催。	1月28日 ～1月30日	473名

エ オープンイノベーションの促進

- ・理研×北九州 GX技術実装フォーラム開催 対面参加者 48名
- ・KSP グリーンインパクトフォーラム開催（KSP と共催）
コンソーシアム会員企業からピッチ企業4社・者を推薦

⑥GXエグゼクティブ・ビジネススクール実施

開講日：令和7年9月11日～11月14日（全6回）

受講者数：6社 8名

カリキュラム：

- 第1回 GXに関連する国内外の動向
- 第2回 GXのエンゲージメント
- 第3回 事業活動の脱炭素化
- 第4回 脱炭素ソリューションの開発
- 第5回 GXを実現するための手段
- 第6回 GX実現のためのアクションプラン

⑦CO₂排出量可視化ツールの無償提供（R8.3 現在累計 35 社に提供）

(8) 次世代自動車技術拠点推進事業

①カーエレクトロニクス拠点推進事業

「パーツネット北九州」及び「北九州自動運転推進ネットワーク」の事務局運営を通じて、セミナーや勉強会、視察会等を実施し、産学連携、会員企業同士の連携を強化することにより、部品の軽量化等の脱炭素社会の実現に資する環境技術や自動運転関連技術など、学研都市の研究シーズを活かした特色のある自動車関連技術の研究開発を支援した。

こうした取組みを通して、カーエレクトロニクスを中心とした自動車技術の拠点化を推進した。（次世代自動車勉強会で実績掲載）

(9) ロボット開発等支援事業

①地方大学・地域産業創生交付金事業

北九州市、九州工業大学、安川電機と連携し「革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト」において、キラリと光る大学づくりと地域産業の活性化を目指してプロジェクトの推進・運営を行った。具体的には大学改革、研究開発、導入支援の各ワーキンググループに関与し、特に FAIS としては、大学が行う研究開発を実践的見地からの支援を行うとともに、合計 113 件（市内 109 件、市外 4 件）の企業を訪問し、生産性向上につながる導入支援活動に注力した。

②ロボット関連装置等の研究開発支援

北九州ロボットフォーラムの活動を通して、ロボット・イノベーション推進補助金を新たに開始して、2 件のテーマに補助金を支出して研究開発支援を行った。

テーマ名	申請大学等
次世代配電作業用協働型小型ロボットマニピュレーターの研究開発	北九州工業高等専門学校
生成 AI を活用した産業用ロボット向け対話型ユーザインターフェースの開発	北九州市立大学

③産業用ロボット導入支援事業

北九州市ロボット・DX 推進センターにおいて、個々の生産現場に対応したロボットシステムの試作・開発を支援する他、中小ものづくり企業に対し、産業用ロボットの導入支援、導入効果の事前検証（Feasibility Study）の 2 つの公募事業を行った。

【FAIS 実施の補助金活用】

産業用ロボット導入支援補助金（6 件）
桑原電工(株)、ケミテック TTC(株)、(有)CORE、(株)是永商会、新北九州工業(株)、ハインツテック(株)

④「北九州ロボットフォーラム」(研究会)の運営

- ・会員数 57 社、12 大学、17 機関・団体（発足時 45 団体・個人）
- ・総会の開催 令和 7 年 7 月 2 日 令和 7 年総会

(10) 半導体・エレクトロニクス技術推進事業

①新エレクトロニクス産業創出事業

北九州市域の半導体関連産業の振興のため、R4 年 7 月に設立した「北九州半導体ネットワーク」の取組みとして、第 5 回北九州半導体ネットワーク総会の開催、第〔2 回〕九州半導体

産業展、SEMICON Taiwan2025、ゆめみらいワーク 2025 などの展示会への出展、「ひびきのテスト研究会」の開催、学研都市3大学で半導体関連の研究を行っている研究者のシーズ集をまとめた「北九州学術研究都市 半導体関連大学研究シーズ集」を更新するとともに英語版を発行し、産学連携の促進を図った。また、半導体分野で設計人材不足が指摘されている中、北九州市立大と日本 IBM が共同で開発した「システムオンチップ (SoC) 設計セミナー The Game Chiplet」の開催を北九州市とともに支援し、設計人材の育成を推進した。

②「先端半導体技術セミナー」の開催

AI、クラウド、光通信や5G/6G、EV・SDVといった先端産業を支える半導体がいかにGXを実現するのか、「AI半導体とチップレット技術」と「通信と情報処理に変革をもたらすIOWN構想とそれを支える光電融合デバイス技術」をテーマにセミナーを開催した。(12月4日受講者134名)

(11) 北九州技術移転機関 (北九州 TL0) 運営事業

大学等で生み出された研究成果を特許化し、ライセンス契約等により企業へ技術移転を図った。

令和7年度末現在			
累積特許出願件数	433 件	累積技術移転成約件数	239 件

* 知的クラスター創成事業の成果でFAISが特許出願した件数を含む

3 ロボット・DXの一体的推進による生産性向上の支援

(1) 北九州市ロボット・DX推進センター運営事業

令和4年度に北九州市が学研都市に北九州市ロボット・DX推進センターを設置し、FAISが運営を受託した。当センターではFAISロボット部門と情報部門が一体となり、ワンストップで中小企業の生産性向上を支援する体制とし、ロボット・IoT・デジタル化などの先端技術の導入支援、相談対応やアドバイス、事例紹介、人材育成等の事業を実施した。

さらに地域企業、高等教育機関、金融機関、Sierとも連携し、地域産業の高度化を促進した。

①ワンストップ相談窓口の運営

令和3年度まで地域企業のデジタル化を支援してきた「北九州市デジタル化サポートセンター」を令和4年度から「ワンストップ相談窓口」に発展させ、ロボット導入、DX推進等にワンストップで対応する体制を整えた。令和6年度には利用者がより相談しやすくなるよう、「北九州市デジタル相談窓口」という事業愛称を設定した。

令和7年度においては、DXに関する相談に対して幅広い分野で対応するため、外部の登録専門家を継続募集し、登録専門家を75社99名に拡充した。

令和7年度 相談受付数96件 (DX92件、ロボット0件、5S2件、他2件)
コーディネータ派遣142件、専門家派遣342件

	累計値	4月末 時点	5月末 時点	6月末 時点	7月末 時点	8月末 時点	9月末 時点	10月末 時点	11月末 時点	12月末 時点	1月末 時点	2月末 時点	3月末 時点
昨 年 度 比	相談受付件数(累計)※相談のみ含む												
	令和6年度	8	17	29	42	52	60	70	84	88	91	98	106
	令和7年度	9	19	24	37	43	48	63	69	74	77	85	96
	相談受付件数(累計)※相談のみ含まず												
	令和6年度	6	14	25	35	44	50	57	69	72	75	82	89
	令和7年度	9	19	24	36	40	45	60	66	71	74	82	93
	コーディネータ派遣												
	令和6年度	13	24	43	59	76	85	99	117	126	137	149	159
	令和7年度	12	23	33	50	57	71	85	94	105	114	129	142
	専門家派遣												
	令和6年度	16	47	78	118	143	176	217	252	304	330	358	377
	令和7年度	23	57	97	120	138	160	178	207	253	275	313	342

②集い・つながりの場

集い・つながりの場として、地域企業と高等教育機関、金融機関等との連携を促進し、産学官金のハブとしての機能を果たすため、外部と連携したセミナーやイベント等を開催して交流を促進や機運醸成を図った。

○西日本 DX 推進フェアの開催

北九州市産業経済局中小企業振興課及び公益財団法人北九州観光コンベンション協会との共催により、課題解決 Expo2025内で西日本 DX 推進フェアを開催した。今回は DX のみならず GX も交え、北九州市 DX 推進プラットフォーム&北九州 GX 推進コンソーシアムとしてのブース出展を行った

【会期】令和7年7月2日（水）～7月4日（金）

【会場】西日本総合展示場

【出展】60社 107小間

【来場】17,023人（課題解決 Expo2025全体）

○DX・GXによる企業・事業・社会の変革セミナーの開催(AIM3 階 DE 展示場)

西日本 DX 推進フェアでの北九州市 DX 推進プラットフォーム&北九州 GX 推進コンソーシアムの共同展示ブース出展に加え、同じ AIM の3階を会場にして、DX・GXによる企業・事業・社会の“変革”セミナーを開催した。

セミナーでは「企業・事業・社会の変革」をキーワードに、DX・GXについて活躍中の方や先進的な取り組みを行っている北九州市の中小企業や事業者を招いて講演やパネルディスカッションを開催した。加えて令和6年度北九州 DX 大賞取組事例の発表・表彰式も行った。

プログラム	日時	講師／登壇者
DX・GX とは何か？～ 企業を成長させる“変 革”について～	7/3 13:00-13:40	日本 IBM(株) 関 貴大 氏
令和6年度北九州 DX 大賞取組事例発表・表彰	7/3 13:40-14:30	(社医)製鉄記念八幡病院、(株)ドーワテクノ ス、(株)白海、大英産業(株)
熱マネジメントによる地 域 GX～すぐできる、企 業連携が広げる排熱利用	7/3 14:30-15:00	(株)IHI 大塚 裕之 氏
中小企業のためのコスト 削減型 脱炭素経営	7/3 15:10-15:50	(株)Green AI 鈴木 慎太郎 氏

中小企業が生き残っていくための DX・GX に関する取組対談	7/3 15:50-16:30	(株)リョーワ 田中 裕弓 氏 (株)西原商事ホールディングス 成田 詩歩 氏 小倉セメント製品工業(株) 上田 哲平 氏
--------------------------------	-----------------	---

(2) ロボット・IoT・AI 等を活用した生産性向上支援（現場技術者向けスクール）事業（再掲）

8 ページ I 1(6)に記載

(3) 市内企業の生産性向上のための提携セミナーの運営（再掲）

9 ページ I 1(7)に記載

(4) 産業用ロボット導入支援事業（再掲）

24 ページ II 2(9)③に記載

(5) エグゼクティブビジネススクールの運営（再掲）

11 ページ I 1(9)に記載

(6) DX モデル事業創出支援事業

令和 3 年度までの北九州市の「中小企業 DX 推進成長支援モデル事業補助金」と、FAIS の「デジタル技術を活用した新ビジネス創出支援補助金」を統合し、令和 4 年度からは FAIS の「DX 推進補助金」として実施している。令和 6 年度からは、それまでの「デジタル化枠」を廃止するなど補助金枠の全面的な刷新を行った。

令和 7 年度においても、昨年度と同様に、補助金枠を見直した。「生産性向上・付加価値創出枠」を廃止し、残りの「計画策定枠」「事業変革枠」については、より事業変革を目指した建付けに変更し、計 11 件を支援した。

補助金の種類	交付上限	補助率	支援した件数
計画策定枠	200 万円	2/3	5 件
事業変革枠	500 万円	2/3	6 件

(7) DX 推進事業

北九州市ロボット・DX 推進センターとして、地域の DX を推進するため、ワンストップ相談窓口の運営や、北九州市 DX 推進プラットフォームの運営等を行った。

① ワンストップ相談窓口の運営（再掲）

25 ページ II 3(1)①に記載

②北九州市DX推進プラットフォームの運営

DX 推進を希望する市内企業（ユーザ企業）と DX をサポートする企業（サポート企業）で構成される北九州市 DX 推進プラットフォームの運営を行った。(株)YE DIGITAL が Salesforce を基盤に開発し、北九州市に無償提供した「北九州 DX 推進システム」を運用し、北九州 DX 推進プラットフォームの活動を促進した。登録会員数は令和 6 年度と比較して増加した。

北九州市 DX 推進プラットフォームの利用促進、会員間の交流を図るため、北九州市 DX 推進フォーラムの開催や、DX 推進フェアでのブース出展、イベント開催等を行った。

なお、システム基盤の Salesforce は、1 ライセンスごとに費用が発生する料金体系であり、会員企業数の増加に伴い、本事業に係る委託料が増加する傾向にあった。こうした中、令

和 7 年度に北九州市と株式会社 kubell が提携したことにより、プラットフォームの会員企業向けにビジネスチャットツール（Chatwork）のビジネスプランの提供を受けることとなり、プラットフォームにおける情報交換・コミュニケーション機能の充実が図られることとなった。

これを契機として、システム全体の構成を見直し、現行システムにおける各機能の利用状況も踏まえながら、必要な機能の整理、システム基盤の見直しやロボット・DX 推進センターホームページへの機能移管を行い、コスト低減が可能な構成へと最適化を図った。

○北九州市 DX 推進プラットフォーム登録企業数

	ユーザー企業	サポート企業	合計
令和 5 年度末	310 社	212 社	476 社
令和 6 年度末	349 社	254 社	573 社
令和 7 年度末	374 社	275 社	622 社

※ 「ユーザーおよびサポートの両方」として登録されている企業があるため、ユーザー・ベンダー企業数には重複があり、合計は実際の企業数を示している。

③広報・周知活動

北九州市内中小企業が DX に取り組むにあたっての情報提供及び市内企業の DX モデルケースの広報・周知活動として、「DX 実践ガイドブック」の制作を行った。

本ガイドブックは、DX が企業価値向上の”手段”であることを踏まえ、具体的なプロセスを示した。かつ、市内企業が実際に DX に取り組んだきっかけや、解決した課題・苦労した点を盛り込むことで、読者が自分事として DX に取り組むきっかけづくりを目的とした。

・掲載企業一覧

企業名	補足
(医) 製鉄記念八幡病院	令和 6 年度 北九州 DX 大賞グランプリ
(株) 白海	令和 6 年度経済産業省 DX セレクション受賞（優良事例） 令和 6 年度 北九州 DX 大賞準グランプリ
(株) ドーワテクノス	令和 6 年度 北九州 DX 大賞準グランプリ
大英産業（株）	令和 6 年度 北九州 DX 大賞優秀賞
(株) 西原商事	令和 5 年度経済産業省 DX セレクション準グランプリ 令和 5 年度 北九州 DX 大賞グランプリ
(株) 戸畑ターレット工作所	令和 5 年度北九州 DX 大賞準グランプリ
松本工業(株)	令和 5 年度北九州 DX 大賞準グランプリ
クラウン製パン(株)	令和 5 年度北九州 DX 大賞 優秀賞
(株) ハピクロ	令和 5 年度北九州 DX 大賞 優秀賞

また、視察対応や西日本 DX 推進フェア等のイベントにおいて、センターの取り組みについて説明を行うなど、認知度の向上に努めた。

④地域情報産業の成長支援事業

北九州市内の情報サービス産業の振興及び産官学のコンソーシアムによる情報通信関連の人材・産業の育成支援を行った。

その他、（一社）九州テレコム振興センター（KIAI）等、ICT 関連団体との連携や、北九州情報サービス産業振興協会（KIP）の活動（事務局）支援などを行った。

(8) 北九州 Sler ネットワーク構築事業

経済産業省「地域企業イノベーション支援事業」を活用して平成 30 年度に設立された北九州システムインテグレートネットワーク協議会の活動を強化し、事例研究やデモロボットの共同制作等を通してネットワーク活動を支援した。

令和 8 年 3 月末現在で、19 社が参加しており、定例会議の開催やロボット産業マッチングフェアへの出展、および地元企業へ自動化に向けた提案などの活動を行った。

令和 7 年度はネットワークの活性化の取組として、デジタル系会員企業の情報交換会を開催し、会員企業同士がお互いを知る機会を作り、他社の方針や現状を知るきっかけとなった。

また、九州工業大学田向研究室が参画するロボティクス分野の生成 AI 基盤モデルに向けた研究開発プロジェクトを支援した。実装データ収集で使用するロボットを 24 時間連続稼働させるため、会員企業のドーワテクノスと三島光産がロボットのメンテナンスと、メンテナンスデータの提供を行なった。最先端のロボット技術・AI 技術の知見を地域のものづくり企業に活かし、地域産業の発展に貢献するケースとなった。

(9) 東田オープンラボによる新ビジネス創出

国立研究開発法人情報通信研究機構（略称 NICT）との連携プロジェクト

NICT 内の総合テストベッド研究開発推進センターと連携し、皿倉山展望台に高精細カメラの設置準備を進め、実証フィールド提供支援を継続するとともに、北九州市環境ミュージアムに山頂カメラからの映像配信端末の設置を働きかけ、環境学習に活かすなど地域での有効活用を並行して進めた。（令和 7 年度初頭設置完了）

(10) 地域 DX 共創事業

地域 DX（デジタル技術を活用した新たな地域経済づくり）を推進するためには、市や FAIS による個別企業支援（相談窓口や補助金等）の軸とは別に、各企業や大学・地域団体等が連携してプロジェクトを共創していく軸を構築する必要がある。

このため、主に北九州市 DX 推進プラットフォームの会員を中心とした共創プログラムを実施した。

具体的には、北九州 DX ツアー（先進的に DX へ取り組む企業への訪問）を通じ、デジタル化・DX 推進に意欲ある企業の発掘。共創により課題解決に取り組む団体に対する助成制度（令和 6 年度創設）の見直しを行い、広報支援、人的支援を含めた伴走制度「HAGUKUM I プログラム」として再構築、令和 6 年度は 7 団体を採択。さらに、採択団体の活動周知を兼ねながら、共創事例を紹介することで更なる参加企業の拡がりを目的としたセミナーを実施した。

これらの活動の結果、令和 7 年度では新たに 4 団体が設立され、地域内での主体的なデジタル化・DX 推進活動が広がった。また、セミナー等を通じて既存団体へ新たな参加者が加わることで団体活動が拡充。団体内での活動を通じて、会員同士が連携する新規ビジネスも創出された。

この他、地域内で更なる DX 推進に対する方向性を検討する「地域 DX 推進懇話会」を実施し、その結果を「地域 DX 推進レポート」として発表、その周知を兼ねた北九州市 DX 推進フォーラムを実施した。

①北九州 DX ツアーの実施

デジタル化・DX についての知見を深めるため、北九州地域内で先進的に取り組まれている

企業へ実際に訪問し、現地で事例の説明を受ける「北九州 DX ツアー」を開催。

日付	訪問先	業種	参加人数
5月20日	戸畑ターレット工作所	製造（金属加工）	14名
5月29日	桃源舎	農業	20名
6月5日	クラウン製パン	製造（食品）	16名
6月12日	西原商事ホールディングス	廃棄物処理・運輸	11名
6月17日	グランド印刷	印刷	17名
8月7日	大英産業	不動産	12名
8月19日	岡野バルブ製造	製造（バルブ）	28名
8月21日	白海	建設（浚渫工事）	12名
8月26日	ドーワテクノス	商社	19名
9月3日	製鉄記念八幡病院	医療	21名

②HAGUKUMI プログラムの実施

令和6年度に設立した「地域 DX 共創活動助成金」を資金支援に加え、広報支援、人的支援の3本柱に組み替え、北九州地域で他事業者との連携によりデジタル化・DX（デジタルトランスフォーメーション）を進める共創活動を行う団体をサポート。

＜採択者＞

団体名	代表法人名	活動テーマ
スマートファクトリー研究会※	松本工業	地域中小製造業がデジタル化を進めるための論理的探究
ケア共創ネットワーク	共創テクノロジー	介護・福祉現場における自助具のデジタル化普及を目指した自助具デジタル化促進研究会
製造業 IoT 活動研究会	イジゲングループ	製造業 IoT の導入及び実証実験
ファーストタッチ DX ラボ※	アジケ	DX の必要性は感じつつも着手できていない企業に対し、業務の質向上につながる DX 導入の第一歩を支援する
北九州市 IoT 実践研究会	戸畑ターレット工作所	サイバー攻撃から身を守るサイバーセキュリティ BCP 研修
北九州生成 AI 研究会※	VIVINKO	生成 AI の中小企業・小規模事業者への導入に関する研究
健康経営 DX 推進コンソーシアム※	リライブ	地域企業の健康意識向上プロジェクト

※令和7年度新規設立団体、健康経営 DX 推進コンソーシアムは追加公募にて採択

③共創セミナー・北九州市地域 DX 推進フォーラムの実施

HAGUKUMI プログラム採択団体の広報・PR と、地域内でのデジタル化・DX 共創活動の周知を兼ねた共創セミナーを開催した。各回の満足度は高く、大半の参加者から今後の共創活動への参加意向も得ている。

共創セミナー参加をきっかけに採択団体の活動に興味を持ち、団体が実施するイベントや部会活動への参加も発生している。

地域 DX 推進レポートの周知を兼ねて実施した地域 DX 推進フォーラムでは、地域における DX 推進の現在地と今後の方向性について議論を行った。

プログラム	開催日	参加者数
地域 DX 共創活動キックオフイベント 【登壇者】 <トークセッション> (株)戸畑ターレット工作所 DX 推進課 課長 中野 貴敏 氏 イジゲングループ(株) 平畑 輝樹 氏 モデレータ：(株)kubell COO 室長 中 哲成 氏 <HAGUKUMI プログラムピッチ> 採択団体の活動紹介ピッチを実施 <ワールドカフェ> テーマ分けに応じた登壇者と参加者による対話実施	8 月 28 日	28 名
地域 DX 共創 クロスセッション 【登壇者】 <HAGUKUMI プログラム中間発表> 採択団体の令和 7 年度中間活動報告ピッチを実施 <ワールドカフェ> テーマ分けに応じた登壇者と参加者による対話実施	11 月 17 日	40 名
北九州市地域 DX 推進フォーラム（北九州市と共催） ※ WORK AND ROLE2026 併催イベントとして実施 <北九州 DX 大賞表彰・事例発表式> 登壇社：プーラビダ(株)、(株)池間組、(有)白石書店（司会による代読）、シャボン玉石けん(株)、(株)不動産中央情報センター <トークセッション①> テーマ：地域 DX 推進の現在地 登壇者：熱産ヒート(株) 代表取締役社長 川口 千恵子 氏、日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株) 執行役員/九州 DX センター長 兼 ブランド推進担当 古長 由里子 氏、(株)ふくおかフィナンシャルグループ DX 推進本部 副本部長 井川 浩二 氏、北九州情報サービス産業振興協会 矢野 宏之 氏 モデレータ：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 主任研究員 丸川 正吾 氏 <HAGUKUMI プログラム最終発表会> 採択団体の令和 7 年度最終活動報告ピッチを実施 <トークセッション②> テーマ：地域 DX 推進がもたらす未来 登壇者：大英産業(株) 代表取締役社長 一ノ瀬 謙二 氏、(株)クアンド 代表取締役 CEO 下岡 純一郎 氏、独立行政法人情報処理推進機構 デジタル基盤センター デジタルトランスフォーメーション部 DX 推進グループ グループリーダー 伊佐山 大智 氏、(株)kubell COO 室 室長 中 哲成 氏（モデレータ兼任）	3 月 26 日	45 名 （登壇者除く）

④地域 DX 推進懇話会の実施、地域 DX 推進レポートの発行

更なる DX 推進に向け、現状の市内の産業構造や DX 推進状況に即した戦略を考案し、共創主体となるターゲットの業種の選定やアプローチ方法を検討する地域 DX 推進懇話会を 3 回実施した。主な議題は以下の通り。

第 1 回	7 月 1 5 日	(1) 懇話会の趣旨説明 (2) 地域 DX に関する状況の共有 (3) 意見交換・ディスカッション ① FAIS のこれまでの取組 ② 北九州エリアの地域 DX をめぐる動向
第 2 回	9 月 1 7 日	(1) 前回の議論の振り返り (2) 地域 DX に関する状況の追加共有 ① 市内 IT 企業アンケート調査について ② 北九州市官民対話テーブル説明資料の紹介 (3) 意見交換・ディスカッション
第 3 回	1 1 月 2 7 日	(1) 前回の議論の振り返り (2) 地域 DX 推進レポート素案に関する説明・質疑 (3) 意見交換・ディスカッション（議論） ① 今後の地域 DX 推進ビジョンにおけるキーワード ② 地域 DX 推進における役割の可能性

本会は地域における DX 推進の方向性を多角的に議論するため、産業界・学術機関・金融機関・言論機関の有識者で構成し、特に産業界においては自ら DX を推進する企業とそれを支える IT 企業それぞれ異なる規模の企業の目線から議論を行った。これに加え、北九州市役所関係部局もオブザーバとして招いた。

芝川 洋介	北九州市立大学 ひびきのデータサイエンス教育推進室 室長
吉村 英俊	北九州市立大学 地域戦略研究所 教授
一ノ瀬 謙二	大英産業株式会社 代表取締役社長
川口 千恵子	熱産ヒート株式会社 代表取締役社長
古長 由里子	日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社 執行役員 九州 DX センター長兼ブランド推進担当
矢野 宏之	北九州情報サービス産業振興協会 会長
辻山 秀紀	福岡銀行 ソリューション営業部 デジタル化支援グループ 調査役
池田 郷	西日本新聞社 執行役員メディア戦略局長

本会の議論の内容を踏まえ、今後の地域における DX 推進に向けてあるべき方向性を「地域 DX 推進レポート」として発行した。

本レポートの中では、地域 DX で目指す姿を「産業と暮らしの質を向上させ、物心ともに豊かな地域社会を実現する」として、と位置付け、この姿に向かうアプローチとして、様々なステークホルダーの連携によるエコシステム型の価値共創が求められていることを示し、目指す姿の実現に向けて、以下の 4 つの視点を掲げている。

- (1) 産業の競争力向上による豊かな暮らしの実現（デジタルを活用した産業の高度化）
- (2) 共創と協働による革新が連続的に生まれる地域構造の確立（共創・協働による革新）

(3) DX 推進力となる人材基盤と学びの環境整備（持続的な人材基盤の確保）

(4) デジタル価値が循環する地域エコシステムの形成（地域内でのデジタル価値の循環）

また、目指す姿及び取組の方向性を踏まえ、IT 企業・非 IT 企業に留まらず、他業種の企業や、行政・支援機関をはじめとする DX をサポートする機関を含め、北九州地域における DX の推進に関係する各主体に求められる役割を提示した。

III 中小企業の経営支援と創業の促進

1 中小企業の経営支援と創業支援

(1) 中小企業経営支援事業

中小企業支援センターでは、総合相談窓口、専門家派遣、セミナー、創業・ベンチャー支援等の活動を行い、令和7年度は、創業31件、課題解決265件、マッチング支援5件などの支援実績を得た。

① 中小企業・ベンチャー総合相談窓口事業

中小企業支援センターに中小企業診断士等の専門家を配置し、経営に関する幅広い相談や国などの補助金等の申請支援等も行い、年間約600件の相談に対応した。

加えて、近年、中小企業の課題となっている事業承継に関する相談に対応するための窓口を設置し、27社、34件の相談に対応した。

また、製鉄業の電炉化転換時に影響があると考えられる企業への訪問相談事業を実施し（年間訪問件数139件）、業況の把握などを行った。

② 専門家派遣事業

中小企業支援センターに登録している中小企業診断士、技術士、税理士、社会保険労務士等の専門家（登録人員約150名、令和8年3月末現在）を必要に応じて中小企業に派遣し、個別の経営課題の解決にあたった。

実施企業 7社（派遣回数24回）

③ 情報収集提供事業

市内中小企業等が経営上必要とする各種情報を機関紙やホームページ、メールマガジン等を通して幅広く提供するとともに、各種セミナーを開催した。

メールマガジン登録件数 3,664件 メールマガジン配信・Facebook投稿数 98件
ホームページアクセス件数 42,321件

④ 巡回指導・マッチングコーディネート事業

巡回相談・マッチング担当が企業を訪問し、各種相談に応じながら支援施策の紹介等を行うとともに、ものづくり企業の取引先や提携先を紹介し、販路開拓を支援した。

項 目	件 数
巡回相談件数	299件
マッチング件数	5件（企業同士を仲介、面談）
上記のうち成約件数	1件

⑤ 起業セミナー事業

起業を目指す人を支援するセミナーを実施した。

セミナー名	開催日	修了者数
実践起業塾 2025	9月6・17・24日 10月1・8日	12名

2 知的財産権関連支援

北九州知的財産支援センター運営事業

INPIT（福岡県知財総合支援窓口）と連携し、特許等の知的財産権に関する中小企業等への支援を進め、557件の相談等への助言を行った。

【収益事業等会計】

(1) 学研都市施設活用事業

収益事業（駐車場管理運営、自動販売機設置）を実施し、学研都市の入居者や来訪者の利便性の向上に寄与した。

(2) 財団ビル運営事業

情報産業の集積活性化のため、財団ビルの管理運営（テナント企業へのオフィス賃貸、並びにマルチメディアホール及びセミナールームの貸出サービスなど）を行った。

令和 4～5 年度で照明の LED 化工事を完了し、安全で快適なビル環境の整備に努めた。

〔参 考〕財団ビルの入居状況（令和 8 年 3 月 31 日現在）

○入居企業・・・9 社（入居率約 83.6%）

フロア	入 居 企 業 名
7 階	日鉄ソリューションズ(株)
6 階	セイコーエプソン(株)
5 階	セイコーエプソン(株)
4 階	セイコーエプソン(株)
3 階	(株)ソフトサービスライフケア、日本ビジネスシステムズ(株)、エプソン販売(株)
2 階	(株)TMJ、TIG(株)、SB モバイルサービス(株)
1 階	九州日本信販(株)、エプソン販売(株)（ペーパーラボ）

【法人会計】

(1) 財団の管理運営等

財団を運営していくために必要な人件費及び事務費を支出した。

事業報告の附属明細書

下記の理由により掲載を省略している。

記

令和7年度の事業内容は、事業報告に詳しく記載しており、これを補足する重要な事項はない。

以上